

平成元年10月31日 広島県東広島市福富町に所在する鷹ノ巣山国有林でコンテナ苗の普及とニホンジカによる苗木食害の被害低減のための現地検討会を開催しました。

出席者は、広島県内はもとより、島根県・山口県から、県や市町の職員、森林組合、造林業者等46名の参加がありました。



現地検討会の様子

この現地検討会は、広島県及び広島森林管理署からなる地域林政調整会議の席上で広島県職員の方から「広島県ではコンテナ苗の普及が進んでいない。これはコンテナ苗の根が普通苗の根と違い、小さくまとまっているため、造林者がこのような根で苗木が育つのかという疑問をもっているためである。この問題を解決しなければコンテナ苗は普及しない。」との発言を受けて、国有林では既にコンテナ苗を植栽し順調に生育しているので、これらの疑問を取り除くため、コンテナ苗の成長の検証を行うとともに、ニホンジカによる苗木の食害被害が増大しつつあることから、被害の低減を検討するため開催しました。

苗木の食害防止のために、広島森林管理署では細いワイヤーが入った防護柵の設置とツリーシェルターという筒状のプラスチックで苗木を覆う二つの方法を用いています。



ツリーシェルターの説明

始めに、広島森林管理署の担当者がツリーシェルターにより植栽木の防護方法について説明しました。ツリーシェルターとはどのようなものか、設置の方法、防護の利点と欠点、設置後数年経たぬ所の苗木の状況、工期、価格等を説明したあと、覆ってあるツリーシェルターを取り除き、現在の苗木の状況を確認してもらいました。

次に防護柵について、工期、資材の値段、防護柵の下をくぐろうとするシカに対応するための注意点、設置後網を食い破るシカがいるためメンテナンスが必要なこと、防護柵を飛び越えるシカへの対応方法などを説明しました。



防護柵の説明



見学者による苗木の掘起し

コンテナ苗の成長の検証では、コンテナ苗の生産方法とコンテナ苗の利点について説明しました。コンテナ苗の植栽に当たっては、専用の植栽器を活用しますが、植栽のための穴が小さくて済むため、1日あたりの植栽本数は、普通苗と比較してより多くなります。具体的な説明に当たっては、近畿中国森林管理局森林技術・支援センターが取りまとめたコンテナ苗の活着率、成長に関する試験データ、写真を活用し、普通苗と変わらない成育の状況であることを説明し、最後に検討会参加者に植栽してある苗木を掘り起こしてもらい、根の状況が普通苗の根となんら変わらない事を確認してもらいました。



掘起した苗木の確認状況

現地検討会の参加者からは、「コンテナ苗・ツリーシェルター並びに防護柵の設置等に関する取組は造林事業における課題であったため、良いテーマ設定であった。」、「シカに防護柵を飛び越えさせない方法が参考になった。」及び「コンテナ苗は、流通が十分ではないと思う。」といった感想が聞かれました。